

ふじ 1 号の打ち上げから 30 年を経て、開発などに携わったみなさまの集いが催されるのはたいへん喜ばしいことです。残念ながら本日は所要により欠席させていただきますが、みなさまが思い出話でおおいに盛り上がることを期待しています。————— JAS-1(\*1)開発期の思い出を、以下に簡単に述べます。

## ■パケット通信への興味から JAMSAT に引きずり込まれる

1983 年、モデム内蔵電話を使った FSK 方式での無線データ通信を試したところ、プロトコルなしでは不便と感じました。少し後にケンウッドが発売したアマチュア無線用データ通信ユニット DR-100 が単なる FSK モデムだったのにも失望しました。そんなおり、1984 年にプロトコル搭載のパケット通信 TNC-1(\*2)を知り、キットを米 TAPR から入手し、実用性の高さに感激しました。通信相手を求めて JAMSAT(\*3)月例ミーティングに出席したのがきっかけで、その後どっぷり JAMSAT と JAS-1 に関わることになりました。

## ■パソコン通信コミュニティに行っちゃった人の呼び戻し

1970 年代半ばのマイコン製作ブーム、1980 年代前半の通信自由化によるパソコン通信ブーム開始で、技術志向のアマチュア無線家がパソコンコミュニティ、パソコン通信コミュニティに行ってしまう状況でした。とくに日本のアマチュア無線コミュニティには無線データ通信に熱心な人が少なく、JAS-1 の JD モードと空飛ぶ BBS への評価も期待も低いことを JAS-1 開発メンバーは心配していました。

私は当時、パソコン誌やパソコン通信で情報発信をしていたので、JAMSAT の“濃い”情報をいただいて、パケット通信と JAS-1 計画をそれらメディアで紹介する旗振り役を務めることにしました。

最も初期には 1985 年初めに、TNC-1 でのパケット通信と JAS-1 計画について「パソコン通信青本(\*4)」に 6 ページ執筆しました。この記事には大きな反響があり、無線免許持ちのパソコン通信マニアが、パケット通信でアマチュア無線に戻るきっかけとなりました。

## ■JAS-1 製作で燃え尽きぎみ

JAS-1 製作の終盤、私は「JAS-1 ガイドブック(\*5)」執筆(共著)や、JAS-1 BBS の操作説明用サンプル画面の作成などで、忙しくも楽しく過ごしていました。一方で、製作チームはもちろん周辺作業を担当したメンバーには、「酷」が付くほど過大な負担がかかりました。いまならプロジェクトマネジメントの不備(なかでも体制欠如と支援スタッフのスキル不足)と反省できますが、当時は嫌気がさした方は少なくありませんでした。これも含めて NPO/NGO 組織が大きなプロジェクトを進める際の貴重な経験となりました。

## ■いま

無線への興味は尽きることがありません。1999 年に 0 エリアに転居し、80m 帯のフルサイズ DP アンテナなどを張っています。QRP、NVIS、片手持ちワイヤレス CW パドル、Arduino、RPR (Robust Packet Radio)、FSQ (Fast Simple QSO)あたりにぼちぼち取り組んでいます。

\*1 ふじ 1 号 OSCAR 連番 FO-12 (Fuji-OSCAR 12)、開発コード JAS-1 (Japan Amateur Satellite-one)

\*2 TAPR (Tucson Amateur Packet Radio Corp) は米テキサス州のアマチュア無線団体。AX.25 プロトコル無線データ通信、略称「パケット通信」を管制する装置 TNC (Terminal Node Controller)のキット TNC-1、TNC-2 などを頒布

\*3 日本アマチュア衛星通信協会 (Japan AMSAT) 世界のアマチュア衛星団体 AMSAT の日本の団体

\*4 ASCII ムック「パソコン通信」アスキー刊 1985/4/1 発行 (発売は 1985/2) 略称「パソコン通信青本」

\*5 「JAS-1 ガイドブック」JARL アマチュア衛星委員会著 1985/8 発行